

熊本県立第一高等学校 平成30年度学校評価計画表

<p>1 学校教育目標</p> <p>「くまもとの教職員像」、「県立中学校・高等学校における教育指導の重点」、「人権教育取組の方向」、「特別支援教育取組の方向」、「県体育保健課取組の方向」及び本校の「白梅の精神」等に則り、「健全な心身の育成」、「学力の充実」、「地域との連携」を柱に、生徒一人一人の個性を伸ばしながら、心身ともに健全で叡智に富み、凜とした気品のある心豊かな人材の育成をめざす。</p> <p>そのために、全職員が教育者としての基本的資質（①教育的愛情と人権感覚、②使命感と向上心、③組織の一員としての自覚）や専門性（①生徒理解と豊かな心の育成、②学習の実践的指導力、③保護者・地域住民との連携）の向上に努めるとともに、互いの連携と協力のもと、創意工夫を生かした教育の実践に努める。</p>

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>(1) 目的と目標の明確化による共通理解に基づいた協働体制の強化 (2) 教職員及び校務分掌間の一層の連携による効果的かつ効率的運営 (3) 進路指導体制の強化と指導力の向上 (4) 平日及び土曜日授業の充実と平日放課後の有効活用 (5) 幅広い経験に基づいた自己変革力の育成を図る指導</p>

3 自己評価総括表				
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策
大項目	小項目			
学校経営	学校経営の方向性の具体化	学校改革の更なる推進を目指して取組検証提言と各部・学年教科等による実行	取組の検証と課題の整理を行うことにより、多忙感軽減の具体的なプランを実行する	・昨年度の取組の検証結果を踏まえ、各部・学年・教科等でアクションプランを作成し、実行に移す。特に、担任の業務量軽減について重点を置く
	組織の連携と全職員での共通理解	学校教育目標実現に向けた組織の連携の強化	運営委員会を中心とした各部の連携の強化	・各部・各委員会での入念な打合せと関係部との事前協議 ・運営委員会、職員会議による協議と情報共有 ・年度末反省、学校評価等による検証
			業務の効率化と統一化の強化	・「職員必携」の随時更新・活用による共通理解と業務の効率化
			土曜日授業の充実と平日放課後の有効活用	モジュール学習の有効活用に関する共通理解の構築を図り、実動に移す
	信頼される学校	開かれた学校づくり	保護者・地域・小学校・中学校・大学との連携	・公開授業週間について外部に向けた周知徹底と内容の充実 ・小、中学校への生徒による学習支援事業の実施 ・地域への学校行事の連絡や協力依頼の徹底
			特色ある学校行事等の情報発信	マスコミやホームページ等の積極的活用
	教育環境の整備	必要な設備の充実と安全管理	施設・設備の充実と安全点検、環境 ISO の取組	・省資源（昨年度比5%減）、リサイクルなど宣言項目の周知、行動の徹底
	危機管理意識の向上	学校運営協議会の合理的な運営	地域や外部委員との協力体制と連携の強化	・生徒や職員に対する防災等に関する情報提供の充実と防災マニュアルの実働
			緊急事態発生時における適切な対応	事故発生を未然に防ぐ対策と事故を想定した準備

学 力 向 上	授業の充実	アクティブラーニング型授業の実践	全職員による最低2回の授業参観の実施 アクティブラーニング型授業をテーマとした研究授業及び授業研究会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期と2学期にそれぞれ約1か月の公開授業の期間を設けて実施し、評価シートを導入。・本校におけるアクティブラーニング型授業の定義の確認 ・アクティブラーニング型授業に関する職員研修の実施 ・全授業者を対象とした最低1回以上のアクティブラーニング型授業実践の取組 ・アクティブラーニング型授業に関する教科会の実施 ・授業評価アンケートの実施と活用（各学年：年2回）
	家庭学習時間の増加	各学年家庭学習時間の増加	平日2時間の家庭学習時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通した学習指導計画の作成 ・シラバスの精度の向上
キ ャ リ ア 教 育 （ 進 路 指 導 ）	夢実現に心を燃やし自ら進路を切り拓く生徒の育成	進路情報の共有化と発信	進路環境や生徒の現状に関する情報の発信と共有化推進	<ul style="list-style-type: none"> ・3年進路検討会の実施、1～2学年学力分析会の強化 ・「進路ニュース」（年4回）の発行 ・進路委員を用いたオープンキャンパス情報・キャリアガイダンス情報の提供 ・高大接続改革に関する情報発信
		教科指導力及び進路指導力の向上	各教科との連携強化による職員の教科指導力及び進路指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・校内模試作成等を通じた問題作成能力の向上 ・各種研修会参加の促進および情報の還元 ・高大接続改革に関する情報共有 ・大学入学共通テストのプレテストに関する分析 ・ポートフォリオ作成の体制整備
		進路志望実現に向けた、生徒自身の主体性向上	進路志望の実現に向け、生徒が自ら選択し、調べ、活動する環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導計画（3年間）の検証と改善 ・模擬授業、オープンキャンパス等の体験型授業の主体的参加の促進 ・進路資料室の整備と利用促進 ・進路ノート、受験の手引きの活用促進。 ・キャリアガイダンス（出張講義）の実施（年間15回以上、平均参加者30人） ・ポートフォリオ作成のための指導時間の確保
生 徒 指 導	生活指導の継続と徹底	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・自己管理力の向上による整容の徹底、及び時間の厳守（遅刻者数の減少） ・自ら立ち止まり正対して発声挨拶をする態度を養う ・携帯電話の使用に関するマナーの育成（SNS等に関するマナー） 	<ul style="list-style-type: none"> ・礼節（挨拶）、整容、遅刻指導の実施 ・生徒会による月2回の挨拶運動の実施 ・時間の厳守（始業、集会等の5分前集合の徹底） ・登校指導による挨拶運動の実施 ・インターネットマナーに関する研修会の実施
	安全教育	交通安全教育と交通マナーの定着	・自転車乗車上のルールの遵守による事故防止	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車通学生集会の実施 ・「交通安全の日」の活動を含む交通安全教育の充実（月1回）
	自主自律の精神	・規範意識の高揚とリーダーの育成	・一高祭体育部門、文化部門の内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会中心の学校行事等の運営の充実 ・リーダー研修会の実施

人権教育の推進	教育活動全体を通じた人権教育の推進	職員、生徒の人権意識の高揚	人権教育推進の年間指導プログラムの実践	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育講演会の実施 ・教育相談部と合同の職員研修（年3回） ・各学年人権 LHR を実施（年3回）
	「命を大切に育む指導」の推進	自他の「命」を尊重し、慈しむ態度と心構えを育む取組、及び自尊感情を高めるためストレス対処取組	教科指導や学年（学級）指導等、全ての場面で「命を大切に育む指導」を根底に据えた教育実践と講演会やワークショップによるストレス対処プログラムの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・「命を大切に育む指導」プログラムの周知 ・授業、HR 活動及び特別活動（部活動等）で、生徒が主体的に活動する内容を盛り込んだ取組の実施 ・校内研修や講演会の実施と職員の意識向上 ・ワークショップによるストレス対処プログラム ・生徒人権委員会実施（月1回）
いじめの防止	健全な人間関係の構築	いじめ根絶に向けた取組	いじめ防止の年間指導プログラムの実践。アンケート結果への組織的対応	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ防止の日」（月1回）と「いじめを許さない宣言文」の宣誓（→いじめゼロを目指す） ・全学年の生徒人権委員会主導でいじめ防止についての LHR を実施 ・いじめについてのアンケート（4回）結果を受けての迅速かつ、管理職、学年、生徒指導部、教育相談部との組織的対応
特別支援教育	気づきと理解に基づいた対応	特別な教育的支援が必要な生徒の実態把握と体的支援策の検討・実施	支援を必要とする生徒が、安心して学校生活を送れる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な支援体制の構築（特別な支援や配慮を必要とする生徒への対応） ・学年会、教育相談部会、校内委員会を通しての情報収集・共有 ・生徒理解研修による全職員の共通理解 ・SC や支援員との連携
地域連携	地域と連携した防災コミュニケーションの実動化	地域の小中学校や自治会と連携した防災マニュアルの有効的活用	様々な自然災害に対応できる防災マニュアルを生徒・職員が理解しいつでも対応できる体制を作る	<ul style="list-style-type: none"> ・年間5回の学校運営協議会の開催 ・防災訓練の実施 ・本校独自の防災マニュアルを有効活用する